

## 第11回 APRU(環太平洋大学協会)マルチハザードシンポジウム(フィリピン)で発表しました (2015/10/7-10)

テーマ：APRU、APRU マルチハザードプログラム、国際連携  
 場所：フィリピン大学ディリマン校

10月7-10日にフィリピン大学ディリマン校にて第11回APRUマルチハザードシンポジウムが開催され、フィリピン国内外の学生及び研究者が100名以上出席しました。災害科学国際研究所からは服部俊夫名誉教授、情報管理・社会連携部門の小野裕一教授、桜井愛子准教授、泉貴子特任准教授、災害リスク研究部門のサッパシー アナワット准教授、呉修一助教、保田真理助手、地域・都市再生研究部門のマリエリザベス助教の他、東北大学工学研究科土木工学専攻の牧野嶋文泰氏(津波工学研究分野・リーディング大学院)、佐藤健太氏、バイヤンビン氏(広域被害把握研究分野)の11名が参加し、基調講演・発表(口頭・ポスター)を行いました。当研究所教員による発表のタイトルは以下の通りです。

- **服部俊夫** 「Research on Disaster-related Infectious Disease after Great Tohoku Earthquake」(東日本大震災後の災害関連感染症に関する調査)
- **小野裕一** [Introduction of Global Center for Disaster Statistics](災害統計センターの紹介)
- **サッパシー アナワット**[Field Survey and Analysis of Damaged School Buildings by the 2013 Typhoon Haiyan and Storm Surge] (ポスター発表)(2013年台風ハイエンによる学校の建物被害に関する調査と分析)
- **桜井愛子**「Enhancing Education Resilience at the Disaster-Affected Schools through Learning from the Disaster Experiences: A Case of Ishinomaki City in Japan」(災害経験の教訓に基づく災害被害を受けた学校の教育レジリエンスの強化：石巻の事例をもとに)
- **泉貴子**[Introduction of Activities of IRIDeS and APRU : Academia's contribution to DRR] (IRDeSとAPRUの活動紹介:学術の防災への貢献)
- **呉修一** [Lessons Learned from Typhoon Haiyan and Future Challenges for Disaster Risk Reduction] (台風ハイエンの教訓と将来の防災への取り組みの課題)
- **マリエリザベス**[Tacloban Post-Yolanda, Unprecedented Post Disaster Housing Relocation] (前代未聞の災害後住居移転：タクロバンにおける台風ハイエン後の事例をもとに)
- **保田真理**[A Practical Application of a Children's Disaster Education Program in the Philippines] (ポスター発表)(フィリピンにおける子供の災害教育プログラムの適用)

また、最終日にはシンポジウムから“宣言文”(declaration)が発表され、その中で仙台防災枠組み、学術の防災への貢献に関するマルチハザードプログラムステートメントを支持し、今後も学術の災害・防災への貢献を強化することを宣言し、第11回シンポジウムの幕を閉じました。第12回のシンポジウムは2016年3月7-8日に、京都大学にて開催されます。2016年にインドで開催されるアジア防災閣僚会議に向けて、学術機関がどのような貢献ができるかを議論する場にする予定です。



災害研からの出席者



出席者全体写真